

## 第2回 環境基本計画検討委員会 会議報告

日時	平成24年1月27日(金) 10:00~12:00
場所	コミュニティーセンターやす 会議室1
出席者	委員10名(欠席1名)、事務局4名、傍聴者7名

1. あいさつ
- 北出 委員長  
服部 環境課長

### 2. 議題

#### (1) 前期5年間の取り組みについて

<事務局説明> 【資料】のとおり

- ・ 市民協働プロジェクトの取り組みを紹介

#### (2) 意見交換

<意見要約>

(辻村委員)

- ・ 世代間の格差がないようシャッフルしながら、身近なことを何とかしようとして活動されている実行力に感心した。
- ・ 活動に熱心な方と、あまり熱心でない方の温度差はどのくらいだろうか。特に野洲市では、駅周辺の都市部と農村部では暮らし方がずいぶん違うので、その間をどのように繋げるか課題なのではないか。

(事例紹介)

- 長浜で実施した生産者と消費者をつなぐ交流会(試食会)  
都市部と農村部が繋がれることのひとつに「食」があると思う。

(野村委員)

- ・ 今まで会社勤めで、このような活動を知らなかった。
- ・ 都市部には、自分のことだけをしていればいいという風潮があるかもしれない。
- ・ 野洲にはまだまだ不法投棄が多い。対策はされていると思うが、各自治会と連携をとらなければいけないと感じる。
- ・ 地域を良くしようという関心が高まり、各地域で実践されれば、それが野洲市全体を良くすることにつながるだろう。

(佐藤委員)

- ・ 市民主体で、自らの発想に基づき活動されていることがすごいと感じる。

- ・ 世代間、職種、地域を越えた取り組みを実践していることが素晴らしい。
- ・ 説明を聞いたところ、プロジェクトが入れ子状態になっている印象を受けた。
- ・ 計画に記載されているプロジェクトは細切れ（悪く言えば「縦割り」）で、実際の活動のまとまりとは乖離しているのではないか。
- ・ カテゴリー（分類）分けを考え直してもいいのではないか。そうすることで、プロジェクト間の協力もしやすくなるのではないだろうか。

#### （新富委員）

- ・ 「ごみ・資源分野」の生ごみ資源化プロジェクト担当している。
- ・ 自然部会では、計画に基づき非常にうまくされていると感じる。
- ・ 「ごみ・資源分野」は、やり尽した感がある。また時代の変化もあるのではないか。
  - 各部会でも学習的なことを実施しているので、環境学習をプロジェクトとして実施する必要はないのではないか。
  - 野洲市の生ごみ排出量は、全国平均よりも少ない。焼却炉のカロリーバランス等を考慮すれば、お金を掛けて対策する必要はないのではないか。
- ・ 先ほどご指摘いただいたように、「まち・くらし分野」と「ごみ・資源分野」をひとつにして、新たなテーマを作っていけばいいと思う。

#### （小島委員）

- ・ 事務局の説明では見えないが、実際にはいろいろな課題がある。
- ・ 他の部会とも共通すると思うが、市民生活と関わっている部分が進んでいない。言い換えると、市民が主体性を持って取り組むということが十分できていない。
  - 緑化推進のプロジェクトで言えば、落ち葉の問題などがクローズアップされ、緑化に対する市民や市職員の理解がない。
- ・ もうひとつ、例えば電気自動車の普及やカーシェアリングなど、時代の変化に対応することが必要だと考える。

#### （永橋副委員長・事務局）

- ・ 交通分野の温暖化対策など、現行計画では弱い分野について、さらに5年後の第2期環境基本計画を見据えた助走期間という位置づけで、今できることを盛り込んでいく考え方もあるだろう。

#### （飯田委員）

- ・ 継続することが大事であり、続けることによって地元の関心や理解を得られるようになってきた。
  - 特に生産森林組合が、ほかの団体と協働で取り組みをしている例は珍しく、県内でも注目を浴びている。

- 里山でお金を取ってエコツアーをするなどしようと思えば、地元の理解は必須である。
- ・ また継続したイベントを通じて、他の団体と連携を図れるようになってきた。
- ・ しかし一方で、連携のためには打ち合わせなどが必要であり、組織体制の充実など新たな課題が見えてきた。

(河本委員)

- ・ 活動の共感者を増やしていくためには、シンプルに訴えることが必要。
- ・ 関心の高い人たちが継続して活動していくことも必要であるが、地域で取り組む仕組みが必要であるだろう。
- ・ 自治会は、自主的な組織でありながら、社会的になくってはならない組織。そのため行政が自治会に対し、例えば環境規範など、最低限のラインを示して取り組んでもらうことが必要。

—地域の活動について—

(辻村委員)：かつては地域に婦人会など生活改善を目的とした組織があったが、時代の流れで希薄になってしまったのは、惜しいと感じる。

(新富委員)：私の地域では、婦人会が始めた廃食油回収が、現在も自治会の取り組みとして続いている。こうした取り組みは、強いと感じる。

(飯田委員)：今も婦人会があるところはあるが、働いている人も多く、集まるのが大変。

(河本委員)：地域で今一番元気なのは、老人会である。自治会の運営でも、老人会に支援金を出し、地域の草刈りや清掃などのお茶代として賄ってもらうなどしている。こうした仕組みを市で標準化することが必要だろう。

(小島委員)：自治会の先進的な取り組みをもっと広報して、全体的な機運になるように仕向けていくことが必要である。

(永田委員)

- ・ 人権の取り組みと同じく、自治会単位で環境の学習会を実施し、またその場に行政職員にも参加してもらい、地域の声聞くことが大事だと思う。
- ・ 地域での継続した学習を通じて、環境に対する身近な理解、関心を深めていくことが、自分たちが住むまちをきれいにする最も大事なことではないだろうか。

(永橋副委員長)

- ・ 野洲市で人権政策が積極的に展開できたのは、いろいろな部署がそれぞれ人権に関連する部分で、できることを実践したからだろう。
- ・ 今回の見直しで、環境に関しても同じように、各部署が環境に関連している部分が

あるということを明確にしていくことが大事だと感じた。

(北出委員長)

- ・ 新たな市民参加を増やす取り組みとして、「えこっちシールキャンペーン」を実施している。これは環境活動と農林漁業者をつなげる試みである。
- ・ これまでの取り組みの成果として、国交省や環境省、県などの補助事業に採択されるなど、実績を積むとともに活動資金面でも進展が見られている。
- ・ 一方で各種イベントにおいては、規模を拡大したくても受入れ体制が追いつかないという課題も出てきている。

—行政内部の連携について—

(辻村委員)：まさにそうした受入れ体制の部分において、行政の各部署が協力することで解決できるのではないか。行政の各部署に、環境の業務を当てはめていくことも必要だろう。

(小島委員)：実際に活動をしてみて、行政の各部署と連携するのが非常に大変だと実感した。計画をしっかりと定め、それに基づき動く体制を作ることが課題。

(永橋副委員長)：庁内の体制をどうするかということは、既に行政の課題として挙がっているので、検討委員会でも提言していきたい。

また「やれ！」ではなく「やりましょうよ」というような、重荷にならない形で、やりがいにつながるということも示しながら検討を進めていきたい。

(河本委員)：自主的にできる義務化をしなくてはいけない。

(永橋副委員長)

- ・ 今後、審議会での議論もあると思うので、環境審議会の東郷会長からの意見も伺いたい。

(環境審議会 東郷会長)

- ・ 野洲市が誕生した際に、「環境行動の実践」が環境保全のひとつの柱として定められたが、先ほどからの議論にもあったが、この実践が非常に難しい問題である。
- ・ 私の自治会でも、役員ばかりに負担が掛かっている状態であり、一般住民の自治会活動への関わりが少なくなっている。また高齢化も進んでおり、若い人が少ない。
- ・ こうした現状を踏まえた見直しを進めていただきたい。

### 3. その他

#### ○ 次回の検討委員会について

- ・ 次回の検討委員会では、午前中だけでなく1日かけて活動の現地視察を行う。

- ・ 「食」を媒体としたつながりが効果的と考えられるため、昼食時に野洲の地産品を試食する。

○ **今後のスケジュールについて**

<事務局説明>

- ・ 現在、各プロジェクトの課題、成果等の現状を市民メンバーから聞き取りしているところである。また行政各部署においても同様に現状把握を進めている。
- ・ それらのデータについて、県立大学を含めた事務局で整理し、3月の検討委員会でお示ししたいと考えている。

○ **次回検討委員会**

2月22日（水） 10時（市役所正面玄関集合） 現地視察